

【件名】

文化施設の魅力向上及び区民参加型情報発信力の強化について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）

文化施設の魅力向上及び区民参加型情報発信力の強化に係る考え方について取りまとめたので、以下のとおり報告する。

1 背景

- ・文化施設（なかのZERO、野方区民ホール、なかの芸能小劇場）では、区の文化芸術の拠点として、子育て先進区、活力ある持続可能なまちの実現に向け、遊び心ある事業や情報発信を展開していくことが必要である。
- ・今後10年で、まちにハード面での大きな変化が生まれていく中で、文化施設という「点」での事業展開だけでなく、他の区有施設やサンプラザ南側広場など活用可能な施設や広場を最大限活用した「線」や「面」で捉えた取り組みを進めることが必要かつ効果的である。
- ・令和8年3月末をもって、現行の指定管理者の指定管理期間が満了する。

2 現状と課題

- ・なかのZEROの敷地には、貸出対象施設以外にもエントランスや屋外空間など活用可能な空間があるほか、もみじ山公園などと連動した事業展開も考えられるが、こうした機会が少ない。
⇒空間の有効活用による文化施設としての価値や魅力向上だけにとどまらず、もみじ山公園やアニメコンテンツを活用した発信を進める千光前通り、中野区産業振興センターを含めたエリア一帯の魅力向上や地域のにぎわい創出を図る余地がある。
- ・「2024年中野区区民意識・実態調査」によると、文化芸術活動における情報発信が十分だと思う区民の割合は25.5%、区政情報の入手方法として生涯学習スポーツ情報誌「ないせす」を選択した区民の割合は6.5%となっている。
⇒区民にリーチする効果的な情報発信を行う必要がある。
- ・同調査によると、子どもの文化・芸術の鑑賞、体験機会が十分にあると思う区民の割合は19.1%となっている。
⇒子どもを対象とした文化・芸術の鑑賞、体験機会をさらに充実するとともに、それらについて、特に子育て世代にリーチする情報発信の強化が必要である。

3 空間を活用した魅力向上とにぎわい創出 【取組①】

なかのZERO施設内外の活用可能な空間を、文化・芸術イベントや文化施設への誘客促進などに積極的に活用し、周辺一帯を文化と産業が融合したエリアにしていく。

(1) 活用案

- ア 屋外空間でのキッチンカー（移動販売車）の設置や文化・芸術イベントの開催（別途基準策定）
- イ 公園や近隣商業施設と連動した事業の実施
- ウ 投影時間外のプラネタリウム空間のさらなる活用



活用のイメージ



(2) 期待される効果

- ・文化施設や催しの魅力向上と誘客促進
- ・子どもをはじめとする区民の文化・芸術に親しむ機会の充実
- ・公園や千光前通り、産業振興センターを含むエリアのにぎわい創出
- ・キッチンカー（移動販売車）の出店を通じた、チャレンジショップ事業の実施による創業支援

(3) 実施方法の想定

令和8年度からの指定管理者の事業として実施する。また、地域の飲食店や事業者との連携などを検討していく。

4 区民参加型情報発信力の強化 【取組②】

(1) 地域コミュニティアプリを活用した情報発信

・区民に情報が行き届いていない「ないせす」と、利用者の利便性等に課題がある「なかの学び場ステーション」は廃止する。一方、区民自らが投稿でき、即時性・訴求性のある情報発信と受信が可能な、地域コミュニティアプリ「ピアッツァ」を活用し、特に子育て世代へのリーチを図る。

・なお、「ないせす」を廃止する代替として、区役所1階や文化施設での掲示、一部情報の区報掲載などを行う。

・文化施設指定管理者において、なかのZERO、野方区民ホール、なかの芸能小劇場、中野歴史民俗資料館、中野区役所1階・3階キッズスペース、中野サンプラザ南側広場、区民活動センターなどの区有施設でのアウトリーチ事業や、各施設で連動した事業を展開する。これらについて、「ピアッツァ」を中心とした情報発信を行う。

(2) マルチスタジオによる情報発信

なかのZEROの一部スペースに、通りに面し、商業施設に隣接しているという立地を生かし区民等が主体的に情報発信を行う場としてマルチスタジオを整備し、情報発信力を強化する。

ア 活用案

地元メディアによる発信やコミュニティFM放送の場としての活用していく。また、中野区観光協会やアニメでつながる中野実行委員会などによる発信も行う。

イ 期待される効果

- ・区民が番組制作や出演に参加でき、地域に密着した情報発信が可能となる。
⇒さらに参加者自らが「ピアッザ」などで発信することで情報の拡散と訴求が期待できる。
- ・文化芸術活動やイベント等の発信に活用でき、情報発信力の強化につながる。
- ・災害情報をはじめとした、区政情報の発信に活用できる。

ウ 実施方法案

なかのZERO本館1階の一部スペースを民間事業者に目的外使用許可又は貸付けることを検討する（最低限のスタジオ整備は区が行うとともに、事業者は地元メディアと連携できる民間事業者等を想定）。

5 なかのZERO西館の魅力向上 【取組③】

中野区子ども・若者文化芸術振興基金を活用し、中野ミューラルプロジェクトの一環として館内の壁面にアートを施す。プロのアーティストと子どもたちを中心とした区民参加型での企画・制作を行う。

また、地下1階にある指導員室（科学実験室と隣接）について、文化施設の指定管理者と協議し、利活用策を企画・実施する。

6 今後の予定

令和7年12月	次期文化施設指定管理者の指定 空間活用、情報発信の強化に向けた協議・調整
令和8年 4月～	キッチンカーの設置など空間を活用した事業の実施 情報発信の強化 なかのZERO西館館内のミューラルアート制作ほか
令和9年 4月～	マルチスタジオの整備
10月	マルチスタジオにおける情報発信の開始